

学習のまとめの共有

本文中で述べられている筆者の考えを簡潔にまとめたいので、それに対する自分の考えを述べなさい。全体で、400字以上600字以内とする。時間は、25分間。

・「筆者の考え」は、〈前半〉と〈後半〉の二つの内容に分けると書きやすい。例えば「筆者は…〈前半の内容〉…と述べている。そして、…〈後半の内容〉…とも言う。」など。
・「筆者の考え」と「自分の考え」の分量の割合は、二心くらいがよい。

○参考作品（内容に影響のない範囲で河田が添削しているところがあります）

① 筆者は自分の経験をふまえて、コミュニケーション能力とは、コミュニケーションを円滑に進める力ではなく、コミュニケーションが不調に陥ったときに、そこから抜け出すための能力だと述べている。そして、コミュニケーションの失調から回復するためには、自分が立場を離れて、真理の判断を一度保留にしたり、相手に近づいて発言の優先権を与えたりといった対話が大切だとも述べている。

私は本文を読んで、筆者の考えに共感した。私はコミュニケーションを円滑に進めて、話をさえずらず、相手とともに共感し合うことがコミュニケーション能力だと考えていたが、筆者の体験のように、暗黙の了解のようなルールにとらわれず、自分が立場を離れて相手に話すことで、本当のコミュニケーションがとれるのだと感じた。私は、筆者と同じような体験をしたら、肩をそびやかしている人に、もう一度「先ほどなんと言ったのですか」と聞き返すことはできないと思う。相手の気分を害してしまうと考えるからだ。しかし、それでは自分も相手も本当のコミュニケーションをとらずに終わってしまう。自分と相手、二人ともが「普通はしないこと」をすることでコミュニケーションの回路の回復ができることに興味を持ち、これから相手や複数の人と話すときはこのような対話を心がけていきたい。

② 筆者は本文中で、日常の中でコミュニケーションの不調に陥った際には、互いが「ふつうはしないことをあえてする」ことで、コミュニケーションを回復することができると述べている。このとき、回復するために必要なのは対話である。自分ばかりが発言するのではなく、相手に発言権を譲り、自分を説得するチャンスを与えることがコミュニケーションを成り立たせる条件である。相手の知性を信頼し、真理を未決にした状態で対話することが最も大切だとも言っている。

私は、コミュニケーションをとることが苦手であり、その理由を本文に沿って言うならば、相手を信頼していないからである。「自分がこう言う」と相手は納得してくれないかもしれないや、初対面の人に対して「自分から話しかけても相手は応答してくれないかもしれない」など、相手の分かりもしない心情を言い訳にふさぎ込んでいたと思う。しかし筆者の意見を聞いて、コミュニケーション、つまり対話を成り立たせるにはまず初めに相手を信頼することから始まると気づいた。相手は自分の思っている以上に自分の意見も受け入れてくれるし、自分の意見に対しても発見してくれる。そう思うことが大切だと思った。対話の内容がどのようなものであっても、相手の知性を信頼し、相手に発言権を与えつつ、自分からもしっかり発言することも、コミュニケーションを成り立たせるために必要なことだと思う。

③ 筆者は、コミュニケーション能力とは、コミュニケーションを円滑に進める力ではなく、コミュニケーションの不調から抜け出すための能力だと述べている。そして、コミュニケーションの不調を回復するためには、立場を離れる、相手に近づくなど、相手の知性への敬意を払うことが必要だとも言う。

しかし私は、コミュニケーション能力を育てていくには、相手を信じるというよりも、自分を信じすぎないことが大切だと思う。なぜなら、自分の考えに周りの人全員が納得し、共感することはありえないからだ。自分を信じないということは、自分がすべて正しいと思うということだ。

世の中にはいろいろな人がいて、それぞれ違った思いや考えを持っている。だから、相手の知性を信じる、前提を信じるといっても、それは違って当たり前だから、それでも相手を信じるということは難しい。なので、筆者の主張を「自分を過信しない」という風に理解するほうがうまくいくと思うのだ。

このような考えから、私はコミュニケーションに必要なのは、自分を信頼しすぎないということだと思う。

④ 筆者は、コミュニケーション能力とはコミュニケーションを円滑に進める力ではなく、コミュニケーションが不調に陥ったときに、そこから抜け出すための能力であると述べている。そして、コミュニケーションの不調を回復するために、いったん口をつぐむことや、自分の立場を離れることが基本だともいう。

そこから私は対話などといったコミュニケーション能力はさまざまな人とのコミュニケーションによって成長するのではないかと思った。様々な人とのコミュニケーションは人や場合によって不調になることもあると思う。しかし、そのような状態を経験し、コミュニケーション失調の回復もやってみることで、立場を離れたり、相手に近づいたりすることに慣れ、よりよいコミュニケーション能力の成長につながるのではないかと思ったからだ。

世の中では、人と関わらない人はコミュニケーション能力がないと言われるが、それは単に対話などの練習をしていないだけであり、だれでもその機会を作ればその力は伸びるのだと思う。

⑤ 筆者は、コミュニケーション能力とは場を円滑に進める力ではなく、不調から抜け出す力だと述べている。また、その方法として、自分が口をつぐむことと、相手に発言権を与えることを挙げている。こうすることで相手に敬意を表し、不調に陥ったコミュニケーションを改善することができるというのだ。

私は、この考え方に賛成の立場をとる。ただその一方で、日本社会の問題に対して、筆者のとらえ方とは異なる意見を持っている。

筆者は、大声でがなり立てて相手を黙らせることが、今の日本での基本的なマナーだと述べているが、私はここに少し疑問を感じる。たしかに、そういった人が一定数いるのも事実である。一方で、現在の日本には、自分の意見をはっきりと持っている人を、否定的にみるような風潮があるのではないか。

これにより、自身は口をつぐみ相手に発言権を譲るという会話の形式が出来上がることになるのだが、私はこれ自体がコミュニケーション不調の原因になっていると思う。つまり、今の日本では、筆者の述べる「コミュニケーション能力」がコミュニケーション不調の原因になっているように感じるのだ。これでは本末転倒である。

以上から、私は、国民性自体を変えていく必要があると考えた。